

10-1 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう① —DIGってなあに？

グループごとに地域の地図を広げて、地域の危険なところ（浸水しそうなおとこ、土砂崩れが起きそうな場所）や、風水害時に役立つところ（避難所、消防署など）を書き込みながら、風水害時にどう対応するべきかをみんなで話し合う災害図上訓練 DIG（ディグ）について、概要説明と準備をします。



災害図上訓練 DIG（風水害版）の概要と準備の仕方を解説します。



時間軸

実施内容

事前にグループ分けをし、テーブルを囲んで席に着いてもらいます。道具類は事前に準備しておきます。以下の説明文【例】を参考にお話ししてください。

1 DIG とは何か？（1分）

説明文【例】

- DIG（ディグ）は、参加者が地図を使って防災について考える訓練です。Disaster（災害）、Imagination、（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って名付けられました。DIG という単語は、「掘る」という意味を持つ英単語であるとともに、「探求する」、「理解する」という意味を持っています。このことから、DIG という言葉には、「災害を理解する」、「まちを探求する」、「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。
- DIG では、参加者が大きな地図を囲み、みんなで書き込みを加えながら、ワイワイと楽しく話し合っ、ゲーム感覚で災害時の活動や対応を考えるものです。
- 堅苦しい決まりのようなものはなく、楽しく、自由にかつ活発に意見交換できる雰囲気をお互いに作る事が大切です。



事前の話し合い

2 道具類の紹介（2分）

説明文【例】

DIG で使う道具を紹介します。

- 地図（地域が詳細にわかる 1/2500～5000 程度の地図）
- 透明シート（地図の上に敷きます）
- セロハンテープ（地図と透明シートを固定します）
- 油性ペン（地図の上に書き込みをします）
- ベンジン、ティッシュペーパー（間違ったところを消します）
- ふせん（メモ、地図上の表示や意見を書きだすのに使います）
- 丸型のカラーシール（地図上に表示します）
- 模造紙（意見を整理して発表するために使います）



DIGで使う道具

3 準備（2分）

説明文【例】

- （地図が複数枚あるとき）1枚の大きな地図になるよう、セロハンテープで貼り合わせます。また、その地図をセロハンテープで机の上に貼り付けます。（注1）
- 地図の上に透明シートをかぶせて、セロハンテープで固定します。（注2）



地図に透明シートをかぶせる

4 自己紹介（5分）

説明文【例】

- DIG に入る前に、初対面の参加者もいることを考えて、グループのなかで自己紹介をします。
- 名前、年齢、好きな食べ物、嫌いな食べ物、趣味など、なんでも構いませんので、お互いに楽しく自己紹介をしてみてください。（注3）

※クラスで実施するなど、互いによく知っている場合は省略してください。



身近な話題で楽しく自己紹介

指導ポイント

- （注1）使用する地図が1枚のみの場合は、貼り合わせる作業をしなくても結構です。
- （注2）透明シートに地図の四隅をマークしておけば地図と透明シートがずれてもすぐに直せます。
- （注3）小学校では、クラスの顔見知りで行いますので、自己紹介を省いても結構です。初対面の方どうしで行う際には、楽しく自己紹介をすることで、リラックスして発言しやすい雰囲気をつくる事が大切です。

自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、指導者の手伝いをお願いすることが考えられます。

ひと工夫

道具類で重要となる透明シート、油性ペンで書いた線などを修正するベンジンは、ホームセンター等で購入することができます。

注意事項

DIG はみんなで楽しくやる事が大切です。各グループが和やかに実施できるような工夫（最初に固くならないように、自己紹介の際に好きな食べ物を聞いたりするなど）が必要です。